

補助犬同伴受け入れについて 認知症サポーターについて

財団法人 東京都生活衛生営業指導センター

社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会

千代田区 保健福祉部 高齢介護課

趣旨

本日の講習会報告書は財団法人東京都生活衛生営業指導センターが平成 21 年度 生衛業地域生活支援事業の一環として実施した「補助犬同伴受け入れについて」講習会の模様をもとに作成しています。

講習会は、鮎、麺類、飲食業、理容、美容など生衛業の会員が、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)の理解を深めとともに、使用者を受け入れる場合や補助犬への配慮事項を知るためのものです。あわせて、認知症と思われる高齢者や市民が認知症の方に日常生活で接する場合、どのように対応することが望ましいかなど、講演内容を具体的にまとめたものです。

「補助犬同伴受け入れについて」は、財団法人 日本盲導犬協会 神奈川訓練センター 普及推進事業課マネージャーの山口義之さん、そしてユーザー（使用者・以下ユーザーという）の矢野裕子さんにもご参加いただき盲導犬理解に必要なお話をいただきました。

さらに、認知症サポーター劇団「あら笑（え）座」の皆さんは、認知症になってしまった高齢者とその周辺の人々が生活の場面の接し方を通して、認知症の理解と対応につながるポイントを演じてくれています。

本報告書を活用し、生衛業組合員が盲導犬等の補助犬使用者や認知症高齢者等の理解を深め、生衛業のサービス向上と地域社会の福祉に貢献することを期待します。

生衛業（生活衛生関係営業）とは：

鮎商・中華料理・社交飲食業・料理・飲食業・喫茶飲食・食鳥肉販売・冰雪販売業・理容・美容・興行・ホテル旅館・館宿泊業・公衆浴場業・クリーニングの 16 業種の営業を言う。

第1部 補助犬同伴受け入れについて……………	5
○あいさつ・紹介……………	6
○身体障害者補助犬法を知っていますか？……………	7
○身体障害者の現状を知っていますか？……………	7
○補助犬とは？……………	8
○盲導犬は、何が得意だと思いますか？……………	9
○盲導犬ユーザーには盲導犬を管理する義務があることを知っていますか？	9
○もし、吠えたり、飛びかかるというようなことがあったら？……………	10
○盲導犬の排泄はどこで行うのか？……………	10
○補助犬であることを確認するには？……………	11
○盲導犬に声をかけたくなるとは思いますか？……………	11
○こんなときは、ユーザーに声かけをお願いします。……………	11
○盲導犬の特徴をバンナ（ラブラドル雄2歳）の実演を通し紹介！…	13
○結びに……………	14
第2部 あら笑（え）座 公演……………	17
1. 銀行編……………	18
2. 入浴編……………	20
3. 食事作り編……………	21
4. 物取られ編……………	22
5. 散歩編……………	24
第3部 千代田区高齢者安心生活見守り隊について……………	29
「補助犬同伴受け入れについて」等講習会参加者数……………	32
受講者アンケート結果の概要……………	33

第1部 補助犬同伴の受け入れについて



講演頂いた山口さん、矢野さんと盲導犬たち



講演を聞き入る生衛業の皆さん



ハーネスは盲導犬にとって仕事中を意味します。



盲導犬は、静かに待つのも上手です。

第2部 あら笑（え）座の講演



「誰かいるだけで」をフロア全員で合唱



肉じゃがづくりの会話を通し、「できる」を確認



街で認知症の方を見かけたら、声をかける



千代田区保健福祉部の高山さんから千代田区高齢者安心生活見守り隊について紹介

第 1 部 補助犬同伴受け入れについて

<あいさつ・紹介>

山口さん：こんにちは、財団法人日本盲導犬協会 神奈川訓練センターから参りました山口です。本日はよろしくお願いします。

はじめにこの機会を与えてくださいました関係各位に御礼申し上げます。

補助犬のことを知っていただく機会が少ないため、お店に入れない、タクシーに乗れないということが起きています。身体障害者補助犬法という法律があるということを知っていただく機会が少ない中、このような会を開催していただきありがとうございます。

本日は、盲導犬のユーザーである矢野さんにも来ていただいています。ご紹介します。

矢野さん：矢野裕子と申します。私の長男！(笑)でディックという3歳の男の子です。一緒に参りました。よろしくお願い致します。

(フロアから拍手)

山口さん：拍手で返していただけてありがとうございました。

矢野さんは、視覚に障害があるので、何人ぐらい人がいるかどうか分かりません。お返事を返していただく際には声や拍手で返してくれると助かります。

矢野さん、この会場には何人ぐらいいるか分かりますか？

矢野さん：60～70名ぐらいの方ですかね。

(矢野さんが言い当てたように60～70名の参加者がフロアにいます。)

山口さん：その通りです。では、男性の方がどれくらいいらっしゃるか、男性の方、どうぞ！

(フロアから声や拍手)

山口さん：女性の方、どうぞ！

(フロアから声や拍手が男性より多かった)

山口さん：女性の方が、元気がいいですね。

矢野さん：男性の方が多いことは分かります。

山口さん：本日のように、目の見えない方と接するときには声や音を出して接していただけると助かります。よろしくお願い致します。

<講演>

○身体障害者補助犬法を知っていますか？

山口さん：最初に堅い話を交えることになりますが、よろしくお願い致します。
皆さんの中に身体障害者補助犬法をご存知だという方いますか？

(フロアから挙手や声)

山口さん：結構いらっしゃいますね。今日は1／3位の方がご存知ということです。

○身体障害者の現状を知っていますか？

山口さん：身体障害者は約 380 万人の方が手帳を持っており、それ以外の方も入れると 480 万人とも言われています。

わが国の総人口が 1 億 1 千万人ですが、その中にこれだけの身体障害者の方がいるということです。

この 380～480 万人の身体障害者の約半数の方が肢体不自由者といわれている車いすや義足を使われている方がいます。

さらに、残りの半分の方が内部障害者の方で構成しています。

皆さんも電車に乗るとご存知のように「シルバーシートでは携帯電話の電源をオフにしてください」という表示があります。これは、心臓に埋め込んだペースメーカーなどに携帯の弱電波が影響を与えるため、シルバーシートに座られる内部障害者の方達に配慮して電源を切りましょうというものです。その他に人工肛門などをつけている方がいます。身体障害の方々の中にはこのような目に見えない体内の臓器に障害を持つ方が多くいます。

残る 2 割のうちの 1 割が聴覚障害者で約 30 万人、同様に 1 割が視覚障害者で約 30 万人という割合になっています。

視覚障害者の方々は障害者の中では少数派であるわけです。

○補助犬とは？

山口さん：身体障害者補助犬法は平成 14 年に法律ができたのですが、ここでの**補助犬**とは**介助犬、聴導犬、盲導犬**の 3 種をいいます。

介助犬は、車いすや義足の方など身体に障害のある方の代わりにボタンを押したり、物を拾ったりする介助を行うことができる補助犬をいいます。現在 50 頭が活躍しています。

聴導犬は、耳が不自由な方の代わりに、お湯が沸いたことや来客が来たことなどを知らせることができる補助犬で、19 頭が活躍しています。

盲導犬は、日本盲導犬協会など育成機関で研修を受けた犬が 1,045 頭、盲導犬としての認定を受けた犬が 3 頭、計 1,048 頭が目の不自由な方の指示を受けながら、活躍しています。

盲導犬は、ユーザーの向かう方向が安全に進むことができることや、反対に障害物があって進むことができないことを知らせ、誘導する役割を担っています。

この利用者の中には 2 人で 1 頭の盲導犬を利用している方もいますので利用者数は 1,069 名の方が盲導犬と生活しています。

盲導犬には、歴史があります。厚生労働省が昭和 42 年に制度をつくり、施行されて 43 年目を迎えています。

平成 14 年に補助犬法ができましたが、補助犬の利用者は身体障害者の少数派の利用です。ですが、補助犬の利用を通し、生活を健常者と同じように当たり前に暮らしたいという思いを持って利用しています。

その実現には、健常者の理解がすごく大切だと考えています。障害によって求めているものが違います。

例えば、皆さんもご存知の点字ブロックというものが道路に敷設されているところがあります。

この点字ブロックですが、車いすを使っている方にとってはがたがたとしているため、車いす操作が大変使いにくい。

しかし、視覚障害者の方たちにとっては、白杖を使って歩く際には、手がかりとなる大切な誘導ブロックとなります。もし誘導ブロックがなければ、歩車道の境のない道路であれば、車道に出て事故にあうことにもつながります。

このように、身体障害者によってニーズが違う。

障害者全体にとって暮らし易い環境を作るためには、点字ブロックのようなハードだけ整備しても実現できないということがご理解いただけたらと思います。

大切なのは、どんどん人が手伝うことで補えるということですし、誰もが使いやすい、暮らしやすい環境にしていくことが大切であるということだと思います。

さらには、その 1 つとして補助犬を利用することが当たり前にできるということが大切だと考えています。そのための法律があるということを理解していただくことが大切であると考えています。

○盲導犬は、何が得意だと思いますか？

山口さん：盲導犬は待つことが大得意です。

○盲導犬ユーザーには盲導犬を管理する義務があることを知っていますか？

山口さん：身体障害者補助犬法では、盲導犬を利用している人の利用を妨げたり、排除してはいけないという法律であるとともに、盲導犬を利用して生活する人が、盲導犬を管理する義務を負っているというものなのです。

この管理とは、健康・衛生管理と行動管理が義務付けられています。

矢野さんは、どのようにディック君を管理していますか？

矢野さん：ディック君の健康管理は、月に 1 回獣医さんを受診して、ドックドック（笑い）を受けています。すなわち健康診断を目の検査をはじめ、口の中や歯も含め全身を見てもらいます。それと年 1 回、9 種混

合のワクチンを接種してもらっています。感染症を防止したりフィラリアの感染を阻止しています。

衛生管理という面では、毎日グルーミングといってブラシをかけています。さらに3週間に1回シャンプーをしています。

また、今日のように洋服を着せているのは、可愛いから着せているわけではないのです。毛が抜けやすいので10本の毛が抜けるところを5本にセーブするという考え方、すなわちマナーコートとして着せるようにしています。

行動管理としては、安全に健康に暮らせるように、盲導犬の居場所を決めて、食事の時間や食事の内容、量、排泄の時間、排泄の場所など行動を決めます。それができないときはゲージに入れるなどを行っています。

○もし、吠えたり、飛びかかるというようなことがあったら？

山口さん：盲導犬は、行動管理責任をユーザーが負っています。吠えかかる、あるいは飛びかかるというような犬は、盲導犬になってはいけませんし、もし、お店で吠えるということがあれば、管理義務違反になり、そのユーザー責任が果たせないということになります。そのような場合は、自治体の障害福祉課などに連絡をしてください。盲導犬は吠えたり、飛びかかるというようなことがあれば、盲導犬になれません。ですから、現状ではそのような盲導犬はいないと思います。

○盲導犬の排泄はどこですか？

山口さん：盲導犬の排泄のことを気にされる方がいます。盲導犬は決められた時間に決められたものを食べています。そうすることで決められた時間に排泄することができます。

また、お店などを利用する前には排泄をすませてから、入る方法が取られています。もちろん排泄を長い時間我慢させると盲導犬も体が疲れてしまいますので、ユーザーの管理義務が必要です。このユーザーが盲導犬の排泄を管理しやすくするために、お店の方が、盲導犬の排泄に使ってよい場所（駐車場や植え込みがある所など）を具体的に情報提供してもらえると助かります。

また、屋内でも排泄できるような仕組みもあります。多目的トイレで排泄させることもできる例では、しっぽの方にビニール袋のような排泄物をキャッチできる袋状の物を使って、排泄した物はトイレ

に流します。基本はユーザーが処理をします。

ユーザーが求めたことを手伝ってください。ご自身ができることはやってもらうという考え方でよいということです。そのためにも、盲導犬ではなく、ユーザーに声をかけていただき、手伝いできるところを手伝っていただけると助かります。

○補助犬であることを確認するには？

山口さん：盲導犬は、お仕事をするときにはハーネスというものを付けてユーザーの指示にしたがいます。そのハーネスのところに盲導犬という表示があります。聴導犬には聴導犬の表示があります。見える位置に表示が育成団体を含め示してあります。またユーザーは必ず補助犬を使用する際には使用者証を携帯することになっていますので、あやしい場合は使用者証の提示を求めてもいいということです。

以前、地下鉄にゲージにいれず小型犬を連れて、盲導犬だと言い張るご夫人がいました。まず、盲導犬や介助犬は、ある程度の大きさが必要になります。実際に体を支えたり、ボタンに届いたり、ハーネスを付けて使用者の手が届くことが前提になります。また、飼い主が盲導犬だと言い張っても盲導犬になれるものでもありません。

○盲導犬に声をかけたくなると思いますが・・・！

山口さん：心理として、盲導犬に声を掛けたくなる。しかし、犬に声をかけても、犬は困っていないのです。困っているとしたらユーザーさんです。是非ユーザーに声をかけて欲しいと思います。

基本的に視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者のいずれも、コミュニケーションをとって何を望んでできるか聞いてください。そして、補助犬たちは、仕事ですから基本的に犬に触ったりしないで下さい。

仕事に餌を見せられたり、おいでおいでなど気をそらされるようなことがあれば、それが坂であったり、段差であったりすればユーザーが落ちてしまったり、事故にあったりするかもしれないのです。補助犬の仕事は、犬の気をそらさないようにご理解いただければと思います。

○こんなときは、ユーザーに声かけをお願いします。

山口さん：犬の管理は、ユーザーの仕事です。待機中で伏せをしている盲導犬の体が通路の真ん中に出ていて、通路の邪魔になるということがあってもユーザーは気がつかないことがあります。
このような場合は、ユーザーに声かけをお願いします。

盲導犬を使用しているということで断られてしまうケースは多いのです。賃貸住宅、集合住宅ではまだまだ理解されていませんし、病院などでも理解の違いがあります。

補助犬受け入れを前提に、前向きに捉えていただきたいと思います。心配事があると思いますので、直接ユーザーと話していただいて理解につなげていただければと思います。

そこで、実際にどのようなやり取りをしている矢野さんにお話していただこうと思います。

矢野さん：私は、歯科医に通っています。インターネットのホームページから障害歯科とあるところを探しました。そして、電話連絡して盲導犬と一緒に受診をしたいのだが、可能かどうかを聞きました。

受診できるということでしたので行きました。まず、盲導犬をどこに置こうかということを相談しました。その歯科医は、処置ごとに患者が場所に移動するのですが、その都度相談しながらディックの可能性、ディックにはこうしたいというユーザーの希望を伝えて、ではこのようにしようということを話し合って治療を受けることができます。

困るということをいわれた経験もあります。買い物をするところで通路が狭い個人経営のお店でありました。「そうは言っても！」ということはありません。

山口さん：補助犬法という法律はあるのですが、罰則規定はないので、受け入れ拒否は訴えない限り問題にならない。法律としては弱い部分があります。この課題を乗り越えるためにもご理解とご協力をお願いします。

○盲導犬の特徴をバンナ（ラブラドル雄2歳）の実演を通し紹介！

山口さん：盲導犬バンナといいます。もう盲導犬としての訓練は終わっています。しかし、人がいいという表現がありますが、バンナは犬がいいといえますか現役の盲導犬として働くには難しいところがあります。そこで、PR犬として働いてもらおうと考えています。

（床で静かに待機していたバンナが、しっぽを振って参加者の前に！登場）

山口さん：よく盲導犬の育成は、犬に厳しくしているのではないかと思われがちです。しかし、私たち訓練士を始め、ユーザーも犬も楽しくなければと考えています。

訓練士は、おもちゃを必ず持っています。おもちゃといっても高価な物ではなく、楽しく遊べるものでよく遊んであげます。

そして、名前で褒めてあげます。なでてあげます。GOODと言われたときが、犬にとって楽しいなと思っているときとなるようにします。GOODと言ってたな、楽しいことができるという犬の立場に立って理解できるように教えます。叩いたりしないのです。いけないよということをどう知らせるか、間違えたときに失敗したときに違うよということを教えればいいのです。

（ハーネスを山口さんが用意しますと、バンナは喜んで首を通します。）

山口さん：盲導犬は、ユーザーの左側に必ずついて歩くように訓練されています。犬を見なくても言葉だけで言うことを聞いてくれます。

視覚に障害があるわけですから、朝起きてどこに犬がいるか分からない。ユーザーがハーネスを持つと盲導犬は、仕事の開始ということで自分からハーネスに入っていきます。お仕事をするということを進んでできるように訓練しているのです。

盲導犬は、ユーザーとともに街の中を歩いていますが、盲導犬がどこかに連れて行ってくれるわけではないのです。そして、盲導犬はお料理を作ったり、着替えを手伝ってくれるという訳ではありません。目の不自由な人は、ここに何かあるなということは、物や人にぶつかったり、段差から落ちることで分かるのですが、命がいくつあっても足りません。白杖は足や体の回りの物や段差を確認することができますし、小さく折りたたむことができますし、軽く持ち運

びも便利です。盲導犬は、行く手に障害物や段差があればこれを事前に知ることができ、ユーザーに止まることで知らせることができます。白杖では知ることができない看板など頭上の高いところのことも分かるのです。しかし、盲導犬は小さくなりません。重いのもって歩けません。排泄や食事の世話も必要です。

白杖には白杖のいいところがあります。盲導犬には、ユーザーが早く歩くことができます。

ユーザーそれぞれの考えや生活があるように、白杖や盲導犬が自由に選べ役立つようにしていければと思います。

○結びに

山口さん：盲導犬の育成団体は、**95%**は寄付や募金で成り立っています。賛助会員や募金箱の設置などの協力もお願いできればと思います。よろしくお願いします。

せっかくの機会ですので、ご質問がある方がいれば伺います。

質問者1：全盲の友人がいて、盲導犬を使用していたのですが、並んで歩くと嫌がるという体験をした。また、盲導犬が楽しそうにお腹を出して喜んでいたのだが、どうしてそのようなことが起きたのだろうか？

山口さん：実際にそのときの状況がよく分からないが、視覚障害者の方と歩く場合は、手を引いて歩くという理解というよりは、健常者がユーザーの前に出て肘を貸し歩く方法が一般的だと考える。

また、盲導犬と暮らすユーザーの方が、自立心が高い場合は、健常者が後ろから声をかけてあげる方法もあると思う。

ハーネスをつけているときには、お腹をだして喜んでしまうことがあってはいけない。ハーネスを外している時には、盲導犬ではなく普通の犬としてお腹を出して喜んでいいと思います。そのときハーネスは付けていたのでしょうか？

質問者1：多分ハーネスを付けていなかったと思います。

質問者2：盲導犬は、1日何回、何をどのくらい食べているのですか？

矢野さん：1日2回、朝と夕方決まった時間、決まった量のドライフードを食べ

させています。

山口さん：排泄の管理が必要ですので、矢野さんの場合は 1 日 2 回の食事を持ち運びもできるドライフードを決まった時間に与えているわけですが、1 日 1 回というユーザーもいます。

質問者 3：何歳ですか。

山口さん：バンナは、2 歳です。人間で言うと 20 歳くらいです。

矢野さん：ディックは 7 歳です。人間で言うと 50 歳くらいです。

山口さん：盲導犬は、10 歳が引退の目安としています。人間の 60 歳くらいにあたります。まだ元気な状態ですが、心臓や股関節に負担がかかるので、元気なうちに引退して、新しい人生を暮らしてもらいます。

第 2 部 あら笑（え）座 公演

1. 銀行編

①太郎さん（認知症の方）

②銀行員

③お客1

④お客2

ナレーター

ナレーター 太郎さんは70歳まで仕立て屋さんで生計を立てていました。引退し今は年金で生活を送っています。この一年ぐらい前より物忘れすることが多く何回も同じことを繰り返し聞くようになっています。認知症の初期症状が起こってきています。

<銀行の窓口にて>

太郎① 「すみません。今月の年金が入っていないんだけど。確認してくれないかな？」

銀行員② 「はい、年金は偶数月の15日に入金されます。今月は5月なので6月の15日に入金されます。」

① 通帳を見ながら

「あっ、4月15日に入っているなあ。わかりました。」

② 「では来月、お待ちしております。」

通帳を見ながら帰ろうとする太郎さん。すぐに不安な表情になり再び窓口に戻る。

① 「今月の年金が入っていないんだけど」

② 「先ほども申しあげましたように、偶数月の15日に入金になりますので今月は入金の日ではありません」

少し怒りながら

① 「いや～今月のはずなんだよ。入ってないと困るんだよ」

うんざりした表情で

② 「お客さま。先ほど申し上げましたとおりです。」

③ 「あのおじいちゃん、毎日毎日来るわねえ」

④ 「そうよねえ（笑）」

<ストップモーション>

ナレーター 太郎さんは年金で生計を立てているのでお金が入っていないことが不安でしょうがないんです。認知症の症状が起きてから、年金の入金日がわからなくなり毎日銀行に聞きに来てしまうのです。
銀行員の方に認知症の理解があれば、認知症という病気を知っていれば・・・

太郎① 「すみません。今月の年金が入っていないけど。確認してくれないかな？」

銀行員② 「年金は偶数月の１５日に入金されます。今月は５月なので６月の１５日に入金されます。」

① 通帳を見ながら
「４月１５日に入っているなあ。わかりました。」

② 「では来月、お待ちしております。」

通帳を見ながら帰ろうとする太郎さん。すぐに不安な表情になり再び窓口に戻る。

① 「今月の年金が入っていないんだけど」

② 紙に年金日を記入したメモを通帳に貼り、笑顔で
「はい、年金は偶数月の１５日に入金されます。年金の入金日を記入しました紙を通帳に貼らせていただきましたので、こちらをご確認くださいませ。」

① 「あっ、こうしておけば忘れないねえ。どうもありがとう。」

- ③ 太郎さんと目が合い
「良かったわね」

ナレーター 記憶障害により聞いたことも忘れてしまいますが、紙に書き情報を目から取り入れることで忘れずにいられることもあるのです。ちょっとした工夫で年金日を忘れなくてすむのです。

2.入浴編

登場人物① 花子さん（認知症）

登場人物② 家族 嫁

ナレーター

ナレーター 認知症は日常生活が送れなくなるわけではありません。どんなことでも、まず私の意志を確認してください。

登場人物② 「お母さん。お風呂が沸いてますけど、入りますか？」

登場人物① 「まだいいよ。昨日も入ったし」

花子さんはもう二週間もお風呂に入っていません。でも自分は、入ったつもりになって、なっているのです。

② 「そんなことないわよ。もう二週間も入ってないのよ！」

① 「そんなことないよ。じゃあー昨日だったかね。ちゃんと入ったよ」

② 「お母さん！いい加減にしてくださいよ！毎日そんなこと言って入らないんだから！」

① 「そんなことないよ！」

② 「もー」

<ストップモーション>

ナレーター 認知症に限らず、誰でも無理強いされることは嫌なことです。自分からその気になるようにもっていくことが大切です。

② 「お母さん、お風呂が沸いていますけど 入りますか？」

① 「まだいいよ 昨日はいったし」

② 「明日は 区役所の老人健康診断だから今日も入ったほうがいいわよ」

① 「あら、健康診断だったかね。じゃあ入っとかないと先生に失礼だね。先に入らせてもらうよ」

ナレーター 花子さんはやっとお風呂に入りました。本当は、明日が老人健康診断の日ではありません。でも、たとえ方便でも花子さんが自分からお風呂に入ろうと思うことが大切なのです。

3. 食事作り編

① 花子さん（認知症）

② 家族 （嫁）

ナレーター

ナレーター 私は全てを失ったわけではありません。まだまだ若い物には負けないことも沢山あると思います。若い頃と同じようには出来ないでしょう。あせらせないで、じっと見ていてください。少しだけ手を貸してください。

○ お嫁さんが台所で夕食作りをしています。

① 「私も手伝おうか？」

② 「お母さん、危ないからむこうでテレビでも見ていてください。」

① 「できることは手伝うよ」

② 「私がやったほうが早いから、いいです」

○ 花子さんは台所から淋しげに去っていく。

<ストップモーション>

ナレーター 花子さんは子供5人、50年以上家事をやっているんです。
出来ないと決め付けないで、一緒にやってみたらいかがでしょう
うか？花子さんのすばらしい力が残っている事に気付くでしょ
う？

○ 最初の場面に戻って

- ① 「何か手伝おうか？」
- ② 「助かります。肉じゃがを作るのでジャガイモを切ってもらえます
か？」

○ 花子さん笑顔で

- ① 「私の得意料理だったんだよ、任せて頂戴」

○ 花子さんがジャガイモを切るのを見守りながら

- ② 「お母さんの肉じゃが、久しぶりですね。」

○ ジャガイモを入れ、鍋に入れるが火の点け方が分からず戸惑っている

- ① 「火は、どこを押せばつくのかしら」

- ② 「ここを押すとつききますよ」

○ 花子さんうなずきながら炒め始め、味付けもすんなりと行ってしまう。

- ② 「お母さん美味しい。また今度作ってくださいね」

- ① 「いつでも作るからね。」

ナレーター 人間の能力や機能は使わないと使えなくなるんです。出来ないと
決め付けないで下さい。生きるために戦う力はまだまだあるんで
す。

4. 物取られ編

- ① 太郎さん（認知症）

②家族

ナレーター

ナレーター 皆さん、大事な物は人の目のつかないところにしまいませんか？認知症になると記憶障害になり隠したところが分からなくなっちゃうんです。

○ 慌てて家族のところへ来る太郎さん。

① 「財布が盗まれた。いくら探しても無いんだ。」

② 「またあ？ 毎日毎日、いい加減にしてよ」

① 「お前が盗んだんだろう！」

② 「もう！こっちまでおかしくなっちゃうよ」と怒鳴る

<ストップモーション>

ナレーター 家族の方に認知症の理解があれば、認知症という病気を知っていれば・・・

① 「財布が盗まれた。いくら探しても無いんだ。」

② 「それは困ったね、私も探すから、もう一回探そう」

○ 一緒に太郎さんの部屋に探しに行く。

○ 太郎さんは不満げな表情ブツブツ文句を言いながら

ナレーター 家族の方は太郎さんが財布をどこにおいておくかの見当がついています。

家族の方が探すとあんのじょう財布が置いてありました。
太郎さんは財布を盗まれた、と思いこんでいるので、自分の力で見つけてもらうように手助けをします。そうすることで自分のしまい忘れだ、と気づくことが出来るのです。

○ 探す場所を太郎さんと家族は入れ替わりながら。

- ② 「お父さん。私がタンスを探すから、お父さんは押入れを探して見て」
- ① 「そんなところに入れたりしないぞ」 と言いながらも探すと財布が見つかる。
- ① 「あれえ？あったぞ？」 不思議そうにしながらも、「ああ、ここにしまったんだっけな」
- ② 「良かった、見つかって」 と笑う。
- ① 「ありがとなあ、ほんとに助かったよ」

5. 散歩編

① 太郎さん(認知症の方)

② 通行人

ナレーター

- ① 「今日はいい天気だなあ～、散歩にでも行ってくるか。」

ナレーター 太郎さんは以前から散歩を日課にしていた方です。道に迷うことなどありませんでした。でも・・・

太郎さんは楽しそうに歩いていましたが、次第に目的地が分からず不安げな表情になっていきます。

○太郎さんはウロウロキョロキョロする

- ② 「おじいちゃん、どうされました？」

- ① 「散歩をしてるんだよ。」

- ② 「よい天気ですもんねえ」

- ① 「オレも歳かなあ、帰り道がわかんなくなっちゃって」

② 「おじいちゃん、お住まいはどちらですか？」

① 「荒川区役所の裏なんだけどなあ」

② 「何か住所の書いてあるものをお持ちですか？」

① 「娘からこれを持って歩くように言われているんだ」

○ 首からさげているカードを見せる

② 「私も今から区役所に行くところだから、よかったら一緒に行きませんか？」

① 「どうもありがとう。助かるよ～」

ナレーター 認知症になったからと言って大好きな散歩を奪うことはありません。戸惑っていたり、不安げになっていたら、どうか一言「どうしたの？」と声を掛けてください。きっとあなたのことが天使に見えるでしょう。

6. サポーター編

①サポーター 1

②サポーター 2

③男性(認知症の方)

④警察官

サポーター① 「認知症というのが病気だと知らなかったよ。」

サポーター② 「ただのボケとは違うんだね～」

サポーター① 「認知症になってしまった人、認知症の方の家族を応援していくことがサポーターなんだね」

サポーター② 「うん、そうだね」

① 「そういえば、今日は暑いよね」

サポーター二人で歩いて帰ろうとする。

するとそこにパジャマを着て、片足裸足の男性が歩いてくる。（フラフラしている）

② 「あれ？ パジャマじゃない！」

① 「おや？ 片足も裸足だし！」

二人で確認のアイコンタクト。 大きくうなづく二人

② 「おじいさん どうされましたか？」

男性 「ああ、名古屋に帰ろうと思うんだけど、こっちの方向でいいのかい？」

① 「えっ 名古屋～。ここから歩いていくつもりですか？」

男性 「だって、ここから近いだろ？困ったなあ～」

サポーター①と②は、目でサインを送り、①が男性が舞台袖でしゃべっている間に、②が携帯で警察へ110番。

② 「今、道に迷っている認知症らしきおじいさんに出会ったのですが、〇〇の前にいるので保護お願いできますか？」

警察官登場 おじいさんに近づき

警察官④ 「おじいさん、お名前は？」

③ 「和田 行男ですが？」

手帳を見ながら確認するように

警察官④ 「〇〇のパジャマ 〇〇の靴 和田 行男さん」

うん、うんと頷き、サポーター②を見て

警察官④ 「ありがとう。このおじいさん捜索願が出されていたんです」

警察官④ 「じゃあ、おじいさん。私をご案内しますよ」

③男性 「名古屋にかい？そりゃ助かる」

警察官と男性は舞台から去る

サポーター二人は歩きながら

② 「サポーターの役目ってこういうことだったんだね～」

① 「そうだね」

歌 誰かいるだけで

ナレーター 認知症・・・世間ではボケ老人と言う方もいます。でも、脳の病気によって生活に支障がおきてしまうんです。進行性の病なんです、自分では止められないんです。
誰かの支えがあれば、普通の生活が送れるんです。

ナレーター 自分が認知症になるなんて、誰もが思っていないことでしょう。でも、あなたの親が、恋人が、そしてあなたが認知症になる可能性はあるのです。

これから高齢者がドンドン増え、認知症の方に携わる機会もきっと増えていくでしょう。

その方たちが地域の中で末永く暮らしていけるよう、皆さんで支え応援していきましょう。

Hey(ヘーィ)。

高齢化の進展に伴い、みんなで認知症の人と、その家族を支え、誰もが暮らしやすい地域を作っていくキャンペーンが全国で始まっています。私たち劇団あら笑座も、地域で認知症サポーターを増やしたいという有志が集まって結成されました。結成されたばかりで、まだまだ未熟ですが、仕事の合間をぬって今後がんばって練習していこうと思います。

では、メンバーを紹介します。

花子さん役 認知症を支える家族の会 銀の杖

小杉明子

第 3 部 千代田区高齢者安心生活見守り隊について

高山さん：こんにちは千代田区高齢介護課相談係の高山です。あらえ座の講演を拝見し、大変感心して見ておりました。

このような支援が大切だということで、千代田では安心生活見守り隊というのを取り組んでおります。

○このようなことがありますか？

本日参加されている生衛業の方々に関係深い例でお話をさせていただきたいと思います。

飲食店の例

以前はご夫婦で利用していた方が、ご主人だけの利用となって顔色悪く心配だが・・・といったとき。

お風呂屋さんの例

いつも利用してくれる高齢者の方が脱衣場で、脱いだ服を入れたロッカーの番号が分からなくなって、脱衣室をうろうろ歩き回ってしまった・・・といったとき。

また、お風呂を出た後、ボーとしてしまったせいか、帰り道が分からなくなった・・・といったとき。

理美容院の例

しばらくお見えにならなかった高齢者の方が、髪も洗ってなくボサボサで、髭も伸び放題、どうかされたのですかと聞いてみたが、なんでもないと答えるが、・・・といったとき。

喫茶店の例

毎日のようにモーニングに来ていた方が、食べこぼしが目立って多くなり、以前はブラックでコーヒーを飲まれた方が、砂糖をスプーンに6杯も入れるようになった・・・といったとき。

いずれも高齢のお客様というときに、さてどうするかということがあります。

○千代田区の高齢者と介護を必要とする方の現状

千代田区には、現在 65 歳以上の高齢者の方が 9,121 人いらっしゃいます。

介護保険の利用対象となる要介護認定を受けている方が 5 人に 1 人の割合となっており、認知症の症状が見られる方が半分いらっしゃいます。

このような状況にあっても、千代田区でずっと暮らし続けられるように支える仕組みを区では考えています。

○千代田区高齢者安心生活見守り隊

生衛業の皆さんにも地域活動隊（地域活動隊は千代田区高齢者安心生活見守り隊の構成メンバーに位置づけられています）としてご協力いただきたいと思います。

活動内容は、緑のパンフレットに示してあるように見守り、声かけなど日常の業務を通して、もし、高齢者の方の健康状態や、日常生活に異変が見られたら麴町地域には高齢者あんしんセンター麴町、神田地域には高齢者あんしんセンター神田があります。是非連絡を取っていただきたいと思います。

○高齢者あんしんセンターには！

高山さん：高齢者あんしんセンター麴町には、本日参加している竹内さんをはじめ6名のスタッフがおります。

竹内さん：男性4名女性2名対応しております。よろしくお願いします。

高山さん：高齢者あんしんセンター神田からは、本日参加している看護師の川島さんをはじめ6名のスタッフがおります。

川島さん：男性2名女性4名対応しております。よろしくお願い致します。

高山さん：生衛業の皆さんには地域活動隊として、麴町、神田のあんしんセンターは皆さんの相談に対応できるようにしております。安心センターは区の相談係と密接に連絡を取っています。「高齢者あんしんセンター」の方に連絡を入れていただければ、生衛業の皆さんのお話を聴いて、対象となった高齢者の方に配慮して、誰々さんから聞いたとかないように、自然に関わって対応していきます。

また、区役所には高山を始め担当9名がおりますのでよろしくお願い致します。

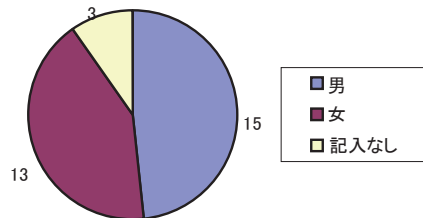
『補助犬同伴受け入れについて』等 講習会参加者数

鯨商生活衛生同業組合	1	(1名は地域生活支援事業検討会委員兼 千代田地区福祉推進委員会委員)
麺類生活衛生同業組合	1	
中華料理生活衛生同業組合	1	
飲食業生活衛生同業組合	5	(2名は地域生活支援事業検討会委員)
氷雪販売業生活衛生同業組合	1	
理容生活衛生同業組合	9	(2名は地域生活支援事業検討会委員)
美容生活衛生同業組合	3	
ホテル旅館生活衛生同業組合	2	
公衆浴場業生活衛生同業組合	2	
クリーニング生活衛生同業組合	6	(1名は地域生活支援事業検討会委員)
<u>(生活衛生同業組合 小計 31)</u>		
行政機関(東京都・千代田区)	8	(1名は地域生活支援事業検討会委員)
一般	19	
地域生活支援事業検討会委員	2	《ほかに生活衛生同業組合等の委員等6名》
千代田地区福祉推進委員会委員	6	《ほかに生活衛生同業組合の委員1名》
<u>(小計 34)</u>		
「主催者関係者」		
あら笑座・銀の杖	13	
日本盲導犬協会神奈川訓練センター	3	
千代田区高齢介護課ほか	5	(1名は地域生活支援事業検討会委員)
千代田区社会福祉協議会	5	(1名は地域生活支援事業検討会委員)
東京都生活衛生営業指導センター	5	(1名は地域生活支援事業検討会委員)
<u>(小計 31)</u>		

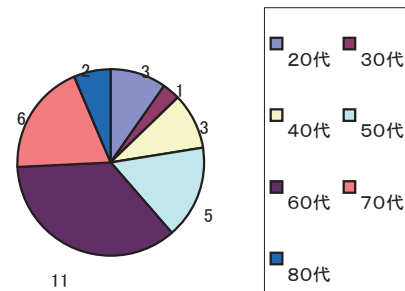
合計 96名

受講者アンケート結果の概要 受講者数65名 回答者数31名(47.7%)

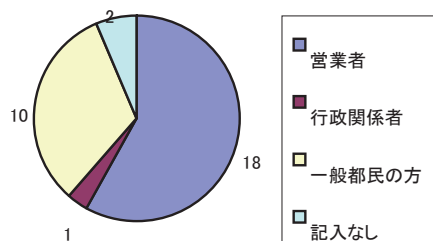
1 あなたの性別をお答えください



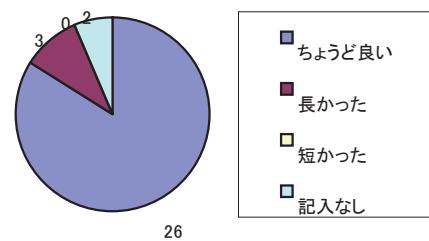
2 あなたの年齢をお答えください



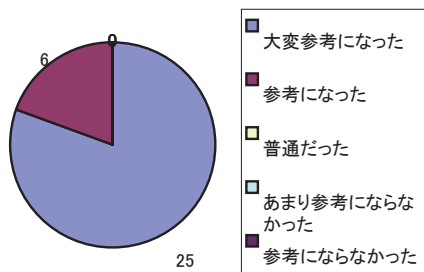
3 あなたに該当するものをお答えください



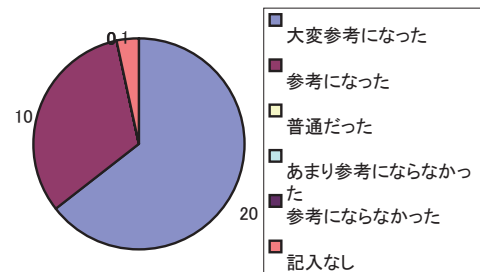
4 開催時間についてお聞きます



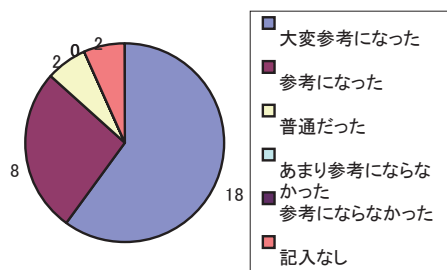
5 補助犬同伴受け入れについてお聞きます



6 劇団「あら笑座」による公演について



7 「千代田区高齢者安心生活見守り隊」について



8 今回の講習会についてご意見・ご感想・ご要望等がございましたら、ご記入ください。

- あまりこういう機会がなかったので、とてもいい時間を過ごせました。
- もう少し広報を通して区民にアピールしたらいいと思います。
- 全区民になるべく知っていただけたらと思います。今後活動、ますますがんばっていただきたいと思います。
- 営業中なので、ウイークデイの日中はキツイですが……。でも、いいお話でした。
- 良かったです。
- 大変良かった。私自身も間近に来ていますので、気をつけて生活しています。
- 大変もり沢山で、かつ理解できました。今後とも皆で協力して生活していきたいと思います。
- この頃「大丈夫ですか？」とよく声をかけられる。「そんなに年寄りに見えるのかしら？」と不満に思っていたましたが、今日のお話を伺って、考えを改めました。今後、声をかけていただいたら「ありがとう。感謝いたします。」と言います。
- 盲導犬についての知識を得て、大変勉強になりました。これから避けて通れない認知症だけに、皆で理解し、助け合えるようになれば本当に良いことだとおもいます。参考になりました。



おとなしく控える ディック（奥）とバナナ（手前）

「補助犬同伴受け入れについて」等 講習会報告書
平成21年9月14日（月） 14時～16時
千代田区役所 1階 区民ホール

主催 財団法人 東京都生活衛生営業指導センター
電話 3445-8751
社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会
電話 5282-3711
千代田区 保健福祉部 高齢介護課
電話 5211-4221

